

新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/nma/>

会長 藤井 信
 新潟県山岳協会
 長岡市学校町3-11-7
 TEL 0258-32-4835

事務局 諏訪恵一
 長岡市高畑町610-10
 TEL 0258-35-4373

編集 新山協ニュース編集
 委員会代表 横山征平
 岩船郡関川村下関1100-1
 T/F 0254-64-0469

年頭あいさつ



副会長 平田 大六

加盟団体におかれては、充実した二〇〇三年を想起、計画されていることと思います。昨年12月8日新潟市で、各加盟団体代表と協会幹部との懇談会を開きました。春の評議員会ではじっくり話せない、新年度事業に反映させたい、などがねらいです。

十数団体、三十名近い出席で、三時間ほどでしたが活発でした。それを中心にして年頭のあいさつと致します。

まず協会のこと。協会に役員がとられている。行事内容がわからない。このため加盟団体の活動に支障を受けている。

とくに前段は、長年かかえている問題です。どのへんでバランスをとってゆかが今後の課題です。協会情報の周知は現在では、この「新山協ニュース」、行事開催案内、ホームページなどを利用していただくことを期待します。次に近年登山者の風潮。

高齢化。ツアー登山。百名山流行。遭難対応。等々。これらは、私たちの山岳団体活動とは別の部分での現象ですが、見過ごすわけにはゆかない社会問題でもあります。また、このような体質をもつ人々の一部は、「転入」という形で入会している例も増えています。

三番目に、山岳の過使用。施設、安全管理、景観など、「平地なみ」の対応が要望されている今日、われわれはどう対処してゆくか、重苦しい問題であると私は思います。

以上です。

話題にはでませんでした。が、やがて新潟県は二巡目の国体をむかえなければなりません。これには、協会も協力必至の立場です。一方、中央では、国体行事が地方財政を圧迫している、という根本論議があります。しかし、結論がでない間に新潟国体は終了するかもしれません。他の種目と異なり、山岳競技は通常の登山行為とは別の部分で内容が進展して今日に至っている、理解されにくい面があります。

多様化のなかで努力されておられる加盟団体の皆様のご健勝をお祈りします。

藍綬褒章に輝く

桑原悌治さん

津南山岳会

渡辺竜吉さん

関川村山の会

環境大臣賞に

●桑原悌治さん(72) 中魚沼津南町秋成222-4は長年環境省自然保護指導員(昭和40年から)として、自然保護思想の普及に努め、また、登山者の安全指導に献身した、登山者の安全指導に献身した、登山者の安全指導に献身した、平成14年11月3日受賞された。

なお、過去に環境庁長官表彰も授与されており、登山家としても、後輩の指導に活躍している。地元秋成で農作物の技術研究に余念がない。秋山郷への途中なので通りすがりに訪ねると会える。

●渡辺竜吉さん(70) 岩船関川村上関300-3は長年環境省自然保護指導員(昭和49年から)として、自然保護活動や登山者の安全指導に貢献され、その功績が認められ、平成14年7月24日青森県十和田市で開催の全国自然公園大会の席上、環境大臣から受けた。

式典壇上には常陸宮ご夫妻も臨席されており緊張したつま、壇上から会場が確認できないほどで多少すくわれたい。

渡辺さんは飯豊連峰を中心に活動しており詳しい。

お知らせ版

- 冬山講習会の開催
- 1、とき 平成15年2月22日 (23日(土・日))
 - 2、ところ 新発田市東赤谷農村婦人の家/組倉山
 - 3、参加費 一人1,000円(当日)
 - 4、携行品自炊用具、寝袋、スキー、登山用具、雪崩対策用具(ビーコン、ソルデ)スコープ、その他冬山装備
 - 5、日程
 - ◎2月22日16:30集只受付
 - 17:00開会式、講義18:30懇親会(豚汁を用意する)
 - ◎2月23日7:30起床、朝食、移動7:00
 - 集合(組倉山登山口)8:00
 - 実技講習(埋没体験・捜索訓練)9:00組倉山スキー登山12:00下山開始
 - 15:10解散式(組倉山登山口)
 - 6、参加申込 平成15年2月14日まで 新潟市豊1-11-20 阿部信一へ ☎0255-273-1572 ☎0255-273-1588
 - 7、その他
 - ①指導員も一緒に行動しますので配慮をお願いします
 - ②平成15年度の指導員検定について、受験希望者の有無をお願いします
 - ア、一般科目 県山協の検定会、研修会、講習会等に参加合格すると「日本体育協会、地域スポーツ指導員(C級)」になります。

登山計画書を出しましょう

❖❖❖❖❖❖ 二王子岳遭難救出始末記 ❖❖❖❖❖❖

下越山岳会会長 高橋正英

11月4日朝から会報飯豊6号の追い込みで、自宅に編集委員が集まって没頭している最中に14時10分頃突然、新発田市役所の防災課から電話で仙台の(男3、女1)パーティが二王子岳で救助を要請して来たとの電話が入った、状況は3日朝、二王子神社を出発して山頂小屋に宿泊4日朝、山頂小屋を出発して下山を開始したが前夜からの降雪のため、八合目の標識のある地点まで4時間半位を要し、進退きわまってビバークを決意して救助を待っているということであった。まずパーティのツェルトの有無を確認するよう依頼する、折り返しツェルト無しの返事、天候を考えると一刻の猶予もできないと判断して、自宅に集まっていた会員に出動できる会員の確保と装備の調達を頼み、すぐに新発田警察署へ打ち合わせに行く、できれば今晚のうちに出発して一王子小屋まで入れる体制がとればベストの旨、進言して調整した結果、可能となり警察署員3名、下越山岳会6名で17時に新発田を出発する、二王子神社に到着すると入山する警察署員3名と込山地域課長と報道カメラが待っていました、支度を整えて一王子小屋へ向かう、8時05分小屋に到着、留守本部へ小屋到着と明日6時出発する旨連絡、遭難パーティ支援の仙台隊も明日5時到着行動を共にするとの連絡あり、明日入山予定の上條に連絡をとり一緒に行動するように指示する。ビバークしている遭難パーティを気にしながら眠りに就く22時就寝。風の音も聞こえず静かである。用たしに外に出て驚いたシンシンと音もなく粉雪が降り続いている大変だ。シュラフに潜り込むがしばらくすると会長、3時半です起きますかと言うので、天候状況を考えると大変そうだから出発予定の6時を一時間早め、5時にして食事を取り出発準備する、下の本部へも時間変更を伝える、ライトをつけて歩み出す、一王子小屋付近で前の晩20cm位だったのが50cm位になっており、一時に積もった雪のために、ズボズボぬかりなかなかなか進まない。沢目の所は腰まで埋まる、遭難パーティの現在の状況を知らせる様依頼する。雪のため時間だけが過ぎなかなか進む事ができない、独標6時57分、なかなか遭難パーティの情報が入らない気になる。後方から来るはずの仙台からの支援隊は一王子小屋まででストップ。上條のみ登って来るとの連絡あり、我々だけで前進するしかない悪条件の中で条件が良ければ事故なんか起きないよ、悪いから起きているんだ皆ガンバレと叱咤する。独標を過ぎ、しばらく行った所で力強い助っ人、上條が合流して来た、この辺からザックを担いでのラッセルは無理で、空身でのラッセルを強いられる、まるで小麦粉の中を歩む様で深い所は胸の辺りまでであり悪戦苦闘の連続で9時37分六合目、視界50m皆だいぶ疲労しているが、遭難パーティはなんとか全員元気との連絡が入り、それに元気付けられ前進を重ねる、11時15分油コボシの苦しいカベを登りしばらくして何度かホイッスルを吹く、反応があった様な錯覚に襲われる。視界のきかない中を目を凝らしながら行く。ようやく確認できた、標高1,300m付近お花畑の入口であった。13時合流する、全員元気でザックはパッキングを済ませて行動できる体制で我々の到着を待っていたが、彼らはワカンを誰も持っていなかった、なんたることか…食器で雪面を60cm程掘り下げて、ダンマットで風を凌いだという、無事を喜び合い、テルモスの熱いお湯を渡し、我々も食べ物を取り小休止の後、下山を開始する。実に一王子小屋を朝5時に出発して約8時間を要していた、ワカンを持っていない彼らを救助隊の後ろに付かせ最後尾は藤井が歩む、独標までレスキュー隊の方が迎えに登って来てくれました、一王子小屋にもレスキュー隊の方がお湯を沸かして待っていてくれ全員で食事を取り、無事全員二王子神社へ下山する事ができました。

神社には、下越山岳会の松尾、渋谷(修)、渋谷(豊)、小林(弘)、河村をはじめ警察、市役所、消防など大勢の方が出迎えてくれました。

遭難救出を終えて思うこと

遭難者がツェルトを持参していなかったにも関わらず、無事救出出来たのは幸運な事が重なっていたと思います。

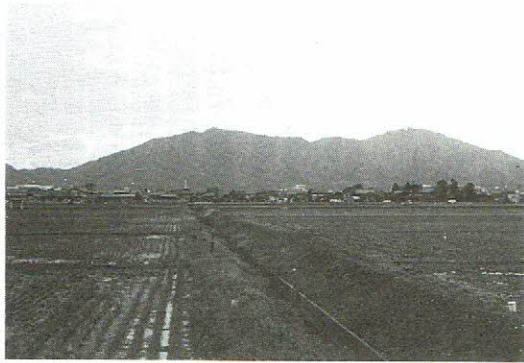
1. ビバークとなった夜、雪は降ったが風が弱く吹雪状態で無かった。
2. ビバーク地点が明確であり、遭難者のビバークの対処が妥当であった。
3. 救助隊の編成から出動まで遅い時間にも関わらず、当日中に一王子小屋まで入ることが出来たので、遭難現場まで悪条件にも関わらず到達することができたが、出動が翌日にずれこんでいたら、時間的にも厳しいものとなったと思われる。
4. ツェルトは必携、いつでもそうであるが、特に自分たちのホームグラウンドを離れ他県の山に入る時には十分に研究して装備を整える事が肝心だと思います。

親睦登山に参加して

悠峰山の会 後藤 邦子

11月3日に県山協の親睦登山が糸魚川黒岩山で行なわれ参加した。

前日、高原交流センターに到着しました。今年冬の訪れが早く、山々にも雪の便りがきていました。この連休も予報は冬型で荒れるということでしたが、糸魚川に近づくにつれ天気は回復し、満天の星空となり、翌日の晴天を期待しての到着となりました。宴もたけなわだったので、私たちがすぐに仲間入りをさせてもらい楽しい一夜を過ごしました。



新潟平野に鎮座する弥彦山群

山と岩石

さわがに山岳会 小野 健

⑰ 蒲原西部・県下最大の弥彦観光山

広大な新潟平野の西端に鎮座する神山として、古来より信仰の対象となつて登られてきた弥彦山群は、新第三紀から第四紀初期の火山活動により、生成されたものである。

この山域は、1950年、佐渡、弥彦、米山国定公園に指定され、県下の岳人に散策コースとしてしたしまれてきました。

山頂付近には弥彦大明神を祀る神社や超高層観測所、テレビ塔、無線中継所があり、ロープウェイ、スカイライン有料道も開通し一大観光地になっています。

弥彦山地は、北から角田山、多宝山、弥彦山、雨乞山、国上山と南北に並び、ライン状の割れ目火山の形を示している。角田山は新第三紀鮮新世の安山岩、火砕岩で弥彦山と国上山は、大三紀層堆積岩を基盤として、第四紀更新世の流紋岩、安山岩、玄武岩、凝灰岩などの火山岩に覆われています。

つまり、これらの山々は、何れもほぼ同時代の火山兄弟山なのです。

翌朝は期待に反して朝からの雨模様となつてしまいました。最初から登山を止める人たちも出ているようですが、私たちは予定通り雨具を着て、雨が美しさを一層際立たせています。最初から急登の連続でした。うっすらと積もった雪の道は歩きにくく、ロープを頼りに高度を上げていきます。そうこうしているうちに下りてこられる人たちとすれ違い、中俣山直下の巨岩を越える頃には登山者は私たち9人と新潟山岳会の2人の計11

人となり、先頭集団となつてしまつたわけですが、中俣山あたりからは尾根も広くなり傾斜も緩くなつたのですが、雨が雪に変わり、積雪も膝下までとなりました。

登山口でワカンをどうしようかと悩んだのですが、これほどまでに多くはないと甘く考え置いてきてしまつたので仕方ありません。そして、今時季の新雪は登りにくいこと、まだヤブが出ていますので、ある程度夏道沿いに行かなくてはならないし、雪の重みで木々が弛んで、それらをまたいだり、くぐつたりの歩行でした。ですが、新雪ツボ足ラッセルも気持ちいいものがありました。久々に見る雪模様のブナ林にも魅せられました。時折雲が切れ主稜線が見えそ

うでしたので、より近づきた
いと頑
張つた
のです
が、尾
根から
外れト
ラバカ
ラにか
かった
所で雪
が強く
ラッセ
ルは膝
下を越
え、そ
こでス
トッペ
がかかり
2時間、私
たちのうち
4人と新
潟山岳会
2人の合計
6人での
最高到達
点でした。
場所は
基盤平
よりも下
で、山頂
ま



小滝川溪谷の「ヨシオの滝」
撮影=杉本敏 (長岡ハイキング)

でまだ2時間以上もある所でした。ブナが広がる林の中にツエルトを張り、ささやかな宴会をして下りました。雪の下りは早いこと、1時間もしないうちに仲間の待つ避難小屋に着きました。
今回山頂アタックはできませんでしたが、霽天届ある避難小屋、整備の行き届いた登山道、途中のブナの林、北アルプスに続く山頂：とたくさんの魅力があります。今度、季節を変えぜひ再チャレンジしたい山となりました。また、久々に他山岳会の人たちとの交流も楽しかったです。県山協の方々、林道を開けてくださった中村さん、大変お世話になりました。
思ってもみなかった早い雪の到来で、真冬と晩秋と深秋が同居した山を楽しませてくれました。まだまだキノコの時季と思つていた今秋、そのキノコたちは早くも深い雪の下になつてしまいました。
残念。

第三十五回自然保護研修会報告

新潟県山岳協会主催（主管同自然保護委員会）七沢恭四郎委員長で、第三十五回自然保護研修会を十月十九・二十日の両日、新発田市東赤谷農村婦人の家と三川村馬ノ髪山を会場に開催した。

豊栄山岳会 渡辺和徳

初日は、今回担当の小林重弘豊栄山岳会会長の司会で進行。まず、藤井新山協会会長から講師紹介を兼ねてあいさつがあった。

・「武田講師紹介」
武田先生は最近「森の遠くで」を上梓されるなど新潟県森林研究所、治山課に勤務される森林研究の専門家である。

ブナの森は山岳のものだけでなく、土や水に及ぼす影響は海のカキにまで至るものだけという、興味深いお話がいただけと思う。自然保護活動指導員は率先してこうした研修会に参加されるとともに、山中での腕章の着用を忘れずにと要請された。

七沢委員長からは、日本山岳協会における「トイレンシンポジウム」の状況・新山協が実施した中国青海省ガンシカ峰遠征の概況報告、荒川ワングル坂野雅之自然保護委員から、「自然公園法の一部改正について」の概要説明がそれぞれおこなわれた。◎武田宏講師より、登山者のための森林学「ブナの森を中心に」と題して研修を受けた。・お話の一部から...

レジュメとOPHによる講義であった。

学術的な解説に加えて印象に残ったことは、
・「ブナ林の維持機構」
・風倒・立ち枯れによる世代交代と枯れ山の例：
登山者は足元だけでなく上を見ても（森を見て）ほしいと芽（いこばえ）からのものがあり、萌芽特性として五十年以上のブナは萌芽しない。県内のブナ林は殆どが二次林で伐採すると再生しない。なぜ五から七年ごとにブナの実は豊作か。

そのメカニズムとねずみの固体密度、熊捕獲数などとの相関について。
・飯豊・朝日になぜ常緑針葉樹林帯がないのか。オオシラビソとの関連とブナの追い出し効果等々、興味深い課題について明解な説明があり、「ブナが森として生きていく姿を見て欲しい」と結ばれた。また、最近課題となっていた「松くい虫被害、ナラ枯れ」にも言及され、この発生メカニズムの詳細な解説をいただいた。

・松くい虫被害は昭和六十三

年頃が発生のピークで、その後減少し、平成十一年からまた増加の傾向にある。マツノガイセン虫をマツのマダラカミキリが媒介する点による。センチュウに強い樹種を開発中だが時間がかかる。
・ナラ枯れはナラ菌をカシノナガキクイムシが媒介することによる。十五年前安塚町で発生が見られ、ここ三・四年被害が拡大の傾向にある。登山者として何か協力できることが無いのかとの質疑では「新しい被害箇所を発見したら情報を提供して欲しい。」とのことだった。

研修会が終わって、遠藤新山協理事長の軽妙なあいさつで会場は和み、各参加団体の紹介の後恒例の交歓会に移る。豊栄山岳会員のもてなしもあり、互いの親睦を深めて夜が更けた。
第二日目は武田講師も参加された実地研修だ。あいにくの雨模様雲行きだったが、宿舎で朝食をとり、七時に三川村綱木の馬ノ髪山登山口へ向かう。標高千mに満たないが登山道は杣道程度と未整備で訪れる者も稀な山だ。

沢沿いから一直線の急登を喘いで九時過ぎには全員が山頂に立った。講師先生から植生の実際について、指導を頂いて意義深い。



自然保護保護研修会場

下越山岳会の皆さんのお骨折りで山頂近く、雨よけのシートと休み場が確保されてあった。草採りや眺望を楽しんで昼食をとって解散した。
この後希望者十三名は講師共々組倉山まで未開ルートの縦走を試みることとなった。九時四十分山頂を出発。あらかじめ豊栄山岳会員の手でルート作業は行われていたが、赤布とナタ目が頼りの藪こぎだ。中間点にはブナ林の中での湧き水や、巨木調査にも現れてきそうなる老ブナ、巨杉にもめぐり会えたり、草の群生で歓声を上げるなど、二時間後には組倉山頂に立つ。山中でも折りに触れて武田先生の指導がいただけるなど、誠に有意義な実地研修だった。

有意義な実地研修だった。

登山・アウトドアの専門店

ICI 石井スポーツ 新潟駅前店

新潟市東大通2丁目5番1号 ☎(025)243-6330(代)

登山・ハイキング・クライミング
テレマーク&山スキー



パーマーク

長岡市西宮内2-97 (長岡市役所裏通り)
TEL0255(37)1200-FAX0255(33)1164
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

http://www.parrmark.co.jp